



震災復興から産業創出へ

石巻専修大学学長 尾池 守

東日本大震災から6年余りの月日が経ちました。震災からの復興には、道路や建物等のインフラ整備に係わるモノの復興と、被災した人々の心の復興があります。石巻専修大学は平成元年の開学以来、理学と工学を専門とする理工学部と、経営学を専門とする経営学部の2学部体制で教育・研究してきました。しかしながら、人の復興や心の復興には、地域社会の文化と伝統を理解し、地域の活性化を担う人材の育成や、元気な子供たちを育てるために初等教育を担う人材の確保が急務の課題となりました。

本学では、震災以前から社会学や教育学を専門とする学部の設置を検討しており、さらに石巻圏域からの要請も踏まえ、平成25年4月1日に人間文化学科と人間教育学科からなる人間学部を新設しました。また、理工学部の基礎理学科と生物生産工学科を発展的に解消し、地域資源の有効利用を目指して、食と自然環境を科学する食環境学科と、生物の幅広い知識と科学を学ぶ生物科学科を、理工学部の新設しました。その結果、この3月20日に四つの新学科から一期生を世に送り出すことができました。

さて、私立大学の強みは、各大学の建学の精神に基づいた自主的で多様性のある教育研究の推進だと思えます。石巻専修大学は、137年前に創立された専修大学の建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を継承するとともに、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げています。さらにこの精神を踏まえ、社会に輩出したい人物像として「社会の諸問題に、自分の役割を自覚して取り組むために、生涯にわたって学び続けることができる人」と明示しております。

この人物像で大事なことは二つあります。一つは、「自分の役割を自覚していること」。言い換えれば、自分の行動を周りの人がどのように評価するか考えられる人、すなわち、他人の視点から自分を見つめることができる人です。二つ目は「生涯にわたって学び続けること」。社会人として出会う問題の多くは、答が見出されていないか、答を一つに特定できない問題です。本学では、ゼミナールや卒業研究を通じて、与えられた課題に対して、自分なりの最善の答を見出す方法を学んでいます。日進月歩する社会の現状では、自ら納得できる答を見出すためには、新たな手法や知識を吸収する必要があります。正に「生涯にわたって学び続けること」が重要です。

地方の小規模大学が生き延びるためにはオンリーワンの大学を目指す必要があります。平成28年度に新設された文部科学省私立大学研究ブランディング事業（地域発展）に応募した結果、「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ 一草葉起源による内水面養殖事業の創出」が採択されました。地域資源の新結合による産業創出を石巻専修大学のブランドとすべく、その第一歩として、震災未利用地などに設けた水槽による魚介類養殖事業の創出を目指しております。

今後とも皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

（当財団 評議員）